

◆ 看護研究相談・支援

《初歩から論文作成までの様々な段階に応じた看護研究研修会の開催》

【実績】

- ・ 病院に赴いて3件の研修会を実施した。その内容は「看護研究のテーマの絞り方」、「看護研究支援をどうする」、「看護研究の論文のまとめ方・書き方について学ぶ」というテーマであった。この研修会はいずれも同じ病院で行い、3月には研究発表会も行われた。
- ・ 大学においては、6月に「看護研究研修会（入門編）」、9月には「看護研究の基礎」（看護ブラッシュアッププログラムと共同開催）を開催した。
- ・ 今年度より実施しているフォローアップ研修の「看護研究」の科目について、看護研究相談・支援チームの教員が、前後期合わせて6日間8時限の講義・演習を担当し、各研修生の看護研究について各々の進捗状況に合わせて、講義・演習、メールを用いた指導・支援を行った。

【成果】

- ・ 3回の研修会のうち2回を夕方からの開催にしたことから受講者は延べで62名となり、好評であった。研修会参加者へのアンケートの結果では、「研究分野における看護に興味を持つことができた」、「文献検索の重要性がわかり論文などを多く読み学ぶことが出来た」などの感想があった。3月に行われた看護研究発表会では9題が発表され講評を行ったが、「各研究の進捗状況に合わせた適切な指導・助言が得られた」、「研究に対して前向きに臨めるアドバイスだった」などの意見を頂いた。
- ・ フォローアップ研修での看護研究相談については、研修終了まで全員が研究を実施できるところまで到達した。満足したという意見と共に「もっと研修時間が欲しい」との意見もあった。

【実施上のポイント】

- ・ 依頼者の質問にはタイムリーに応じる。
- ・ 依頼者の意向に沿った支援を実施する。
- ・ 大学側が出向いて支援を実施する。支援後のフォローも依頼に合わせて確実に実施する。
- ・ 依頼先の職員が参加しやすい時間帯に合わせて研修会や相談支援を実施する。

《小規模病院等の看護職と大学の教員との共同研究／看護研究の発表の場の提供》

【実績】

- ・ 4月から小規模病院等の看護職の方と看護共同研究の取組を始めるべく、学内でのフロー等を整理し、その旨や手続きをホームページに掲載するとともにチラシを作成し、県内の小規模病院等に送付した。
- ・ 今年度は個別での看護共同研究の申し込みはなかったが、フォローアップ研修の受講者同士の関わりの中から抽出された課題について、大学教員との共同研究が緒に着いたところである。
- ・ 6月に開催した中間報告会の中で看護研究発表会を実施した。看護研究相談・支援事業の取組において、平成27年度に看護研究相談を受けてきた看護研究の内2件（学会発表を行った看護研究1件と院内研究1件）を発表して頂いた。

【成果】

- ・ 小規模病院等の看護職との共同研究の仕組みを構築することが出来た。
- ・ 中間報告会の中での発表であり演代数にも限りがあったため2題の発表となったが、外部での看護研究の発表の機会が少ない小規模病院等の看護職の発表の機会を作ることが出来た。

【実施上のポイント】

- ・ 病院内での発表に止まらず、外部での発表に向けてパワーポイントの作成についても支援を行う。
- ・ 共同研究の実施に向け、小規模病院ならではの課題を提案する。